古の大道に明らかなる者は、先ず天を明らかにして道徳これに次ぎ、道徳已に明らかにして仁義これに次ぎ、仁義已に明らかにして分守これに次ぎ、分守已に明らかにして形名これに次ぎ、形名已に明らかにして因任これに次ぎ、因任已に明らかにして原省これに次ぎ、原省已に明らかにして是非これに次ぎ、是非已に明らかにして賞罰これに次ぐ。此れを以て物を治め、身を脩め、知謀は用いず、必ず其の天に帰す。此れをこれ太平と謂う。治の至りなり。

【大体の意味内容】

昔の、大いなる道の原理を悟っていた者は、まず天の自然法則を明らかにしてから、その次に道とその徳に及んだ。道徳を明らかにしてから、次に仁愛と正義に及んだ。仁義を明らかにしてから、それぞれの守備範囲となる、人生における役割を分担した。そうした分守を明らかにしてから、次に天職ともいうべき仕事の形と、その名づけに及んだ。形名を明らかにしてから、次にそれぞれの個性や特質・才能に因んだ任務に取り掛かった。このような因任を明らかにしてから、次に人間の生命活動の根原を深く省察した。この原省を明らかにしてから、次に善しとすべきもの、悪しとすべきものという、是と非の判断に及んだ。是非を明らかにしてから、次に賞と罰との裁定に及んだ。このようにして物事を治め、わが身を修め、賢しらな知謀をはたらかせることなく、天の自然原理に回帰して生きる。こうした世界をこそ太平というのであって、平和の極致なのである。

善し悪しの判断や信賞必罰の実践などは最後でよい。世界の原理〔道〕とその働き〔徳〕がどのようになっているのかを見極めて、その影響下における仁愛や正義をどう施すべきかを優先させなければならない。

今のご時世の影響かもしれませんがその様に読めました。

為政者の政策が長い目で見て効果的だったかどうか、善し悪しは後で構わない。現在はウィルスと共存しなければならない世界であり、経済活動全般に異常事態が発生するという、「天の道徳」に見舞われています。大変酷（こく）な「道徳」です。そのもとでの仁愛や正義、すなわち国民の命・生活（生命活動）を護る、ということのためには、最も効果的なのは４００兆円でも５００兆円あるいはそれ以上でもお札を刷って、国民に直接届けること。「政府の借金が増えすぎて財政破綻するかも」とか「ハイパーインフレが起きかねない」といった確定的でない心配は後回しにすべき。

まずは国民が生き延びることで、それぞれの役割を果たすことができますし、仕事の遂行ができる。今回の本文で言えば「分守」「形名」を守り切ることで、今まで惰性（だせい）で生きてきた日常が、極めて重い意味を持っていたことに誰もが気づき、それぞれの個性や才能に応じた「天命」を知り、自分が果たしてゆくべきことを改めて認識できましょう。

この世で自分が生きてゆくことの意義を深く知り、生きなおし始める。

「新しい生活様式」とは、そうした意識変革（トランスフォーメーション）にこそ基礎づけられるべきものではなかったか。

まずはそのように前に進むべき。善かったか悪かったかは後で評価すればいい。いずれにせよそうして人民が前を向いて生きられる世界こそが、「太平」の世である。至高の治世である。どう評価されるかを懼（おそ）れて、先にすべきことをしないのは為政者として失格だ！

そんな声が聞こえてくる文章でした。